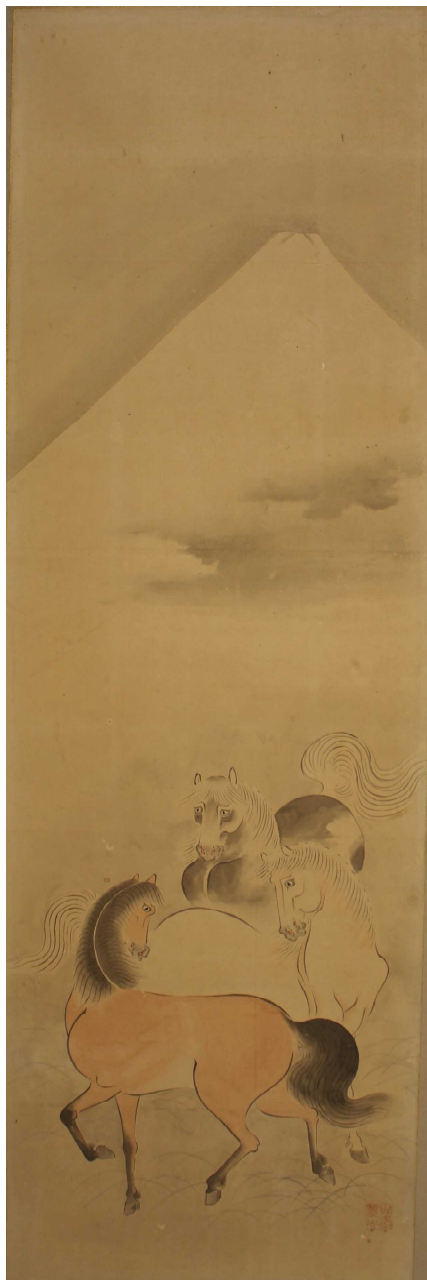


令和8年度大村市歴史資料館テーマ展

大村藩の絵画

場所 歴史資料館 企画展示室 期間 令和8年5月1日(金)～6月7日(日) 10:00～18:00



十二支屏風

作 やまぎきうんせん 山崎雲仙

六曲一双 紙本彩色

十二支と季節の植物や風景を組み合わせた屏風。上記画像は午と酉の画面。

山崎雲仙(1796～1871)はみねけいざん峰経山に絵を学び、さらに江戸でかぶらぎょうたん鏑木雲潭に学んだ絵師。大村藩では国絵図したためがた認方として、領地の絵図の作成や幕府役人の巡見にも同行した。



山水画屏風

作 山崎雲仙

六曲一隻 紙本墨画

雲仙が己酉(嘉永2年、1849)の初夏(4月)に制作した水墨画。一隻ごとに「青山白雲」「溪山松風」「夏木清涼」「桃花流水」「柳溪帆影」「梅溪訪友」の画題で夏の景観を描いたもの。



花鳥画屏風 【個人蔵】

作 山崎雲仙

六曲一隻 紙本彩色

雲仙が71歳の時の作品。水辺に立つ梅の老木に、黒と白のコントラストが特徴的なハッカク(キジ科の仲間)や水鳥など、色彩豊かな鳥たちを配した屏風絵。師の鍋木雲潭の画風に近い、細やかな花鳥画である。



神農図

画 山崎雲仙

讃 まつばやしほんざん
松林飯山

絹本彩色

「神農」とは古代中国の伝承に登場する、人々に医療と農耕を教えたとされる神。白髪・白髭の老人の姿で、草を舂め(葉草かどうか確かめている)、葉の衣をまとうなど、神農像の特徴が良く描かれている。讃は松林飯山(1839~1867)のもので、神農の業績について書いている。

松林飯山は藩校・五教館の教授や大村藩勤王三十七士の中心人物として知られる。



諸葛亮孔明

画 梅溪^{ぼいけい} 鐫木

讃 いちかわべいあん
市河米庵

絹本彩色

梅溪による『三国志』の名軍師、諸葛亮孔明の像。讃は書家の市河米庵。讃に「壬戌嘉平月」とあることから、享和(1802)年12月以前の作品。椅子に座る孔明と、そのそばに立つ童子を描いた、梅溪の晩年の作品。

鐫木梅溪(1750~1803)は長崎出身で江戸中~後期の絵師。長崎で唐絵目利きの荒木元融^{からえめき}や中国人画家の沈南蘋^{しんなんびん}に学んだ。梅溪の養子の雲潭は米庵の実弟。



孔子像

画 鏑木雲潭

絹本彩色

儒教の祖である孔子を描いた作品。江戸時代、君臣や父子の礼を重んじる儒教は、武士たちの基本的な教えであり、湯島聖堂を始め孔子信仰が盛んであった。

鏑木雲潭(1782~1853)は画家の谷文晁たにぶんちゆうに絵を学び、大村藩御用絵師である鏑木梅溪ばいけいの養子となった。江戸を中心に活動し、文化年間に藩主・純昌すみよしの命で玖島城下を訪れた。



松に鶴亀

画 鏑木雲洞

絹本彩色

松に多くの鶴亀を描いた縁起絵。「己丑春日七十五翁」とあり、明治22(1889)年、雲洞75歳の時の作である。

鏑木雲洞(1815~1892?)は鏑木雲潭の子。雲潭に絵を学び花鳥画を得意とした。最後の大村藩御用絵師として仕えたと伝わり、明治以後も東京で画家を続けた。



不二山・日の出

画 大村純昌^{すみよし}

絹本彩色

10代藩主・大村純昌(1786~1838)が文化13(1816)年中秋(8月)に描いた作品。富士山の奥から昇りつつある赤い大きな朝日を描いた作品。富士山を画面右端に寄せ、太陽を正面に配置する大胆な構図。富士山は古くから神聖な山として多くの絵画に描かれている。

純昌は藩財政の立て直しとともに、文化5(1808)年のフェートン号事件による軍制改革といった藩政改革を行った。また、藩校・五教館を玖島城内から本小路へ移転拡充し、教育の拡充も図った。



みのお
箕面の滝

画 大村純昌

絹本墨画

純昌が描いた箕面大滝の水墨画。箕面大滝は現在の大
阪府箕面市にある滝で「摂津名所図会」などにも描かれ
る名所。正面に水量豊かに流れ落ちる滝を描き、これを
眺める三人の旅人を描く。



きじ
雉と月

画 大村純昌 讚 きょうよういん 恭容院

絹本彩色

純昌は絵画を好み、多くの作品を残した。中でも
本作は名作と言える。
添えられた讚は純昌の正室・恭容院(律)による
和歌。

「咲しより ふもとの花は たれとみる
知る人ぞじる おく山の月」



嵐山 須磨

画 大村純昌^{すみよし} 亀井矩賢^{のりかた}

対幅 絹本彩色

純昌と石見津和野(島根県津和野)藩主・亀井矩賢による作品。
矩賢の娘は純昌の正室(恭容院)であり、この絵は義理の親子による対幅の絵に仕立てられている。
二人は学術を振興した藩主であり、絵の素養も深かったものと思われる。



唐獅子

画 大村純熙すみひろ

対幅 絹本彩色

12代藩主・大村純熙が描いた、阿吽の獅子が向かい合う対幅の作品。左側の口を開けているのが「阿」、右側の閉じた方が「吽」で、神社に見られる狛犬こまいぬとよく似ている。「大純熙」の署名は純熙のことであるが、大村藩主の場合「大〇〇」は時々見られる表記である。

大村純熙(1830~1882)は大村落最後の藩主。国内で倒幕運動が見え始めるなか、長崎惣奉行への就任を命じられるも辞任。洋学を学び、海外事情に通じ、藩の軍を西洋式に改めるなどの改革を行った。幕末の大村落を率い、新政府側として明治維新に活躍し、3万石の賞典を受け取った。

大村市歴史資料館 テーマ展
「大村藩の絵画」 展示資料リスト

大村市歴史資料館 企画展示室
開催期間：令和8年5月1日～6月7日

	作品名	作者	備考
1	十二支屏風	山崎雲仙	
2	山水画屏風	山崎雲仙	
3	花鳥画屏風	山崎雲仙	
4	恵比須像	山崎雲仙	
5	神農図	山崎雲仙	松林飯山讃
6	諸葛亮孔明	鐫木梅溪	市河米庵讃
7	孔子像	鐫木雲潭	
8	松に鶴亀	鐫木雲洞	
9	不二山・日の出	大村純昌（10代大村藩主）	
10	箕面の滝	大村純昌	
11	雉と月	大村純昌	恭容院(正室)讃
12	嵐山 須磨	大村純昌 亀井矩賢（石見津和野藩主）	対幅
13	唐獅子	大村純熙（12代大村藩主）	対幅
14	雪月花	大村純熙	